

NSW
CASE STUDY

東京エレクトロン株式会社

ユーザー自身が試行錯誤しながらデータを活用

Denodo Platformを
セキュアにかつ
効果的に運用

コーポレートイノベーション本部デジタルデザインセンター
アプリケーション開発1部
DXデータマネジメントグループの皆様
(左から福島 条 様、野崎 允俊 様、服部 秀郎 様、下井 剛 様)

半導体製造装置の多くの製品群でトップクラスの世界シェアを誇る東京エレクトロン株式会社(以下、TEL)は、業務の質とスピードを向上し、より高い価値創造を目指す中で、担当者が自分自身で試行錯誤しながら必要なデータを用意できるデータ仮想化の基盤としてDenodoを採用しました。その保守・運用を支えるパートナーとしてNSWを選定し、緊密に連携しながら、より高度なデータ活用への果敢なチャレンジを続けています。

導入の背景

担当者が効率的かつ安全にデータを扱えるようデータ仮想化の基盤を導入

TELグループでは、データレイクを中心としたDX基盤を構築して業務の質とスピードを向上し、資本効率向上に資する高い価値を創造しようとしています。

しかし、事業部門に対するデータ提供レベルは十分とは言えませんでした。昨今の情勢としてITやDXの技術者不足が課題に挙げられますが、TELにおいても同様の傾向がありました。そのため、担当者個々のさまざまなニーズに応えることは難しく、データの提供までに時間を要したり、対応できないこともあったそうです。

そこで目指したのが、業務担当者が自分自身で試行錯誤しながら必要なデータを用意できる仕組みづくりです。そうした中でコンサルティング会社から紹介されたのが、データ仮想化によってデータ利用をセルフサービス化する「Denodo」でした。

データ仮想化の利便性はもとより、データガバナンスを支えるセキュリティ基盤や、業務視点でデータを活用できるデータカタログ機能を併せ持つ特徴に注目し、TELは2022年9月にDenodoのPoCを開始。約9カ月におよぶPoCと運用デザインを経て、2023年7月より運用を開始しました。

「当初より情報システム部門のマネージメント層から理解いただいており、またDenodo用サーバーをはじめとするインフラを提供いただけたことも導入の大きな後押しとなりました」(服部様)

TEL

東京エレクトロン株式会社
<https://www.tel.co.jp>

本社所在地 : 〒107-6325 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー 38F

従業員数 : 2,114人(単独)・18,236人(連結)(2024年5月現在)

会社概要 : 半導体製造装置のグローバルリーディングカンパニー。半導体の高性能化にはナノレベルの電子回路のパターンを形成する技術が必要不可欠であり、その中でも重要な鍵を握る「成膜」「塗布・現像」「エッチング」「洗浄」の4つの工程を網羅する製品群を有するほか、その他の工程でも数多くの製品群でトップクラスの世界シェアを誇っている。

目指す姿

- ▶TELグループの人々が効率的かつ安全にデータを扱える状態を確立したい
- ▶データを扱う人が自らの手で自由にデータにアクセスできるようにしたい

取り組み

- ▶データ利用のセルフサービス化を目的としデータ仮想化基盤を導入
- ▶最初から運用保守の内製化を前提とした取り組みを実施

効果

- ▶ITやDXの技術者に依存せずユーザー自身によるデータ活用が現場レベルで広がる
- ▶利点を聞きつけたさまざまな部門からも利用希望が舞い込むなど、データ利用のより良い経験が広がる

TELは安心・信頼できる パートナーとしてNSWを選定



NSW選定の理由

他ベンダーと違いデータ活用における 運用に必要な事柄を理解している

TELはDXデータマネジメントグループが主導してDenodoの導入を進めてきましたが、目標とする「データの民主化」を実現するためには、より良い運用体制を確立することが不可欠です。ITやDXの技術者ではない方々が使うため、想定していない問題やトラブルが発生するからです。

そこでDenodoの保守・運用面をサポートしてくれるパートナーを求め、候補となったベンダー数社の中からNSWを選定しました。

「データ仮想化を最適に活用していく上で、自分たちだけでは解決できない技術課題が必ず発生します。そうしたときに、NSWは何でも相談できるパートナーになってもらえると判断しました」(下井様)

また服部様は「NSWを選定した決め手の1つは、Denodo上で定義したメタデータをメンテナンスするツールを用意していたことです。私たちもメタデータ整備を重視しており、データ活用を推進していく上で何をなすべきかという価値観を、NSWならば共有していけると考えました」と語ります。

データマネジメントへの取り組みを成功させるには、データ活用における運用に必要な事柄を理解し、継続的な取り組みが求められます。その本質を理解した伴走型支援サービスを提供するNSWだからこそ、TELはパートナーに選んだのです。

NSWの保守・運用サービスがもたらした効果

安心の伴走型支援サービスがDenodo活用を 高度化

TELがNSWの保守・運用サービスを高く評価しているのは、問い合わせ件数に上限が設けられていないことです。

「おかげでDenodoの運用で困ったことがあれば、いつでも気軽にNSWに問い合わせることができ、NSWの真摯な対応にも安心感があります。加えてOSのセキュリティパッチの適用時やDenodoのバージョンアップ時に、万一の不具合発生に備えて技術者が待機するなど、オンラインでも手厚いサポートを行っていただいています」(下井様)

こうしたメリットを踏まえ、下井様は「NSWの保守・運用サービスは、非常にコストパフォーマンスが高いと言えます」と強調します。

また、NSWが提供したメタデータのメンテナンスツールも、TELにおけるデータ活用のあり方に大きな“気づき”をもたらしています。

「各システムが管理しているデータは種別も項目も多岐にわたっており、それぞれの意味を個別に解釈し、Denodoのデータカタログにメタデータとして登録するには多大な工数を要します。どうすればそうした煩雑な手作業を効率化することができるのか、NSWのメンテナンスツールをそのままの形で利用しているわけではありませんが、多くのことを学ばせていただきました」(服部様)

今後の展開

TELとNSWと互いに“切磋琢磨”し ユーザー主導のデータ活用を推進

TELはDenodoのユーザー層を全社的に拡大していくため、教育トレーニングやコミュニティづくりにも注力しています。NSWに対しては、これらの取り組みにおけるサポートを期待しています。

「現在は基本的にDenodoから提供されたドキュメントをベースに教育用テキストを内製していますが、NSW独自の知見をまとめたドキュメントや技術情報をぜひ共有して支援していただきたいです」(福島様)

「今後Denodoのユーザー層が拡大していった際に、例えばパフォーマンス問題が顕在化することも予想されます。そうしたさまざまな課題を解決しつつ、さらにUXを向上するためにどんな手を打てばよいのか、引き続きNSWには有益なベストプラクティスを提供していただきたい思います」(野崎様)

ただし、TELは決してNSWに全てを依存しきっているわけではありません。

「Denodoを基盤としたデータ活用で私たちが重視しているのは、社内をしっかりノウハウを蓄積していくことです。その意味でもNSWに、いつまでも基本的なことを教えてもらうだけではだめで、問い合わせ内容も高度化していく必要があります。自分たちで調べ尽くした上で解決できないものに厳選して問い合わせるようにしています。これにあわせてNSWによるサポートレベルの向上も期待しています」(服部様)

TELとNSWは互いに“切磋琢磨”しあいながら成長していく関係性にさらに磨きをかけることで、ユーザー自身が自由に鮮度の高いデータを活用しビジネスの価値を高めていくことに果敢に取り組んでいきます。



NSW株式会社

〒150-8577 東京都渋谷区桜丘町31-11

【お問い合わせはこちら】

サービスソリューション事業本部営業統括部第一営業部 E-mail: data-mgt@ml.nsw.co.jp

<https://dx.nsw.co.jp/>